

第 3 回検討部会における意見等への対応について（緩和策）

No.	質疑内容	対応	資料
1	【課題とポテンシャル】 千代田区の課題とポテンシャルについて冒頭に記載しているが、 <u>事業や施策体系の記載の前にも入れたほうが良い。</u>	各基本方針の説明文の箇所で区の課題やポテンシャルを踏まえた表現に修正する。	資料 3 p. 33, p. 34
2	【既存事業の評価】 主要事業のうち新規は一つだが、 <u>既存の事業についても強化する点、あるいは変わらない場合でもうまく進んでいるから続けるのであれば、これまでの評価などを入れるとわかりやすい。</u>	既存事業について、これまでの取組状況、進捗評価について追記する。	資料 3 p. 36, p37
3	【面的対策の内容】 <u>面的エネルギーについて、事前説明の資料には都の事前協議制度に相当する制度を構築するようなことが具体的に書かれていた。今回の資料にははっきりと書かれていない理由はなにか。</u>	まちづくり部門との調整を今後行ったうえで実際の制度を検討するため、計画の中では広めの書き方をしている。 具体的には開発の初期段階で開発主体に対する専門家の派遣や助言ができるような仕組みづくりを考えている。	資料 3 p. 39
4	【面的対策の内容】 <u>区でも住宅については総合設計制度があるのではないかと。それは面的というよりも主要事業 1 のグリーンストック作戦の対象ということか。</u>	現状では総合設計制度の場合、区の場合は個別に地域貢献や環境対策をお願いしているが、新たな制度の中でどのように組み込んでいくか全体のバランスを見て検討する。	-
5	【人工排熱の削減】 基本方針 3 「スマートシティの強化」の「 <u>ヒートアイランド対策の推進</u> 」のところに人工排熱の削減に関することを入れた方が良い。ヒートアイランド対策としては、表面被覆がメインになるかと思うが、省エネあるいは潜熱化でやると温暖化対策にもつながるため、温暖化対策と絡むという意味では、人工排熱の削減を入れたほうが良い。特に千代田区は人工排熱が多いエリアだと思われるため、検討してほしい。	人工排熱の抑制対策について追記する。	資料 3 p. 46

No.	質疑内容	対応	資料
6	<p>【各主体の役割】</p> <p>「4.1.2 各主体の役割」で示す図について、<u>区の役割に「支援」という言葉があるが、支援にもいろいろな形があり、分類やブレイクダウンして表現することも有効な場面がある</u>と感じている。例えば啓発活動、主体間の連携を促すようなこと、地域間連携の推進、インセンティブなど動機づけのアクション、刺激、意欲を引き出すことを目的として取り組む補助金や助成などもある。特に最近は行動経済学のナッジと言われる、望ましい行動を後押しするようなアプローチなど、実際に何かの行動を起こしてもらい、起こさせる誘引を上手にデザインすることも含めて区にしかできない支援の形があると考えている。</p>	各主体の役割のイメージ図については、表現の仕方を工夫する。	資料3 p. 26
7	<p>【自立分散型電源の確保】</p> <p>「自立分散型電源の確保」の事業のコージェネレーションシステムの部分について、このようなことは本当に力になるが、<u>自立分散型電源の確保の対象を明記しなくて良いのか。</u></p> <p>表現の問題として、一般的にコージェネレーションシステムというと燃料電池や住宅用も含まれており、そのようなものをイメージする方もいるかもしれない。</p>	コージェネレーションシステムは区内の事業所ビルを対象としているため、分かりやすい表現を検討する。また、今後計画期間中に対象を変えていることもあると想定されるが、研究させていただく。	資料3 p. 46
8	<p>【自立分散型電源の確保】</p> <p>気候変動の観点から、設備機器類を設置しても水害で水没してしまうリスク等もある。<u>自立分散型電源が本来の力を発揮できるよう、設置だけではなく運用面でもガイドラインのような考え方を示していくことが大事である。</u></p>	水没のリスクについて、制度を運営していく中でガイドラインを作る前提かどうかも含め、参考にさせていただく。	-
9	<p>【フロン対策】</p> <p>フロン関係の対策が新たに入ってくるかと思うが、今回は具体的には入っていないということか。</p> <p>千代田区はフロンの排出量が多いということだが、<u>フロンの中でも冷媒、冷凍機、空調、その他のどれが多いのかなど特徴はあるのか。</u></p> <p><u>フロン対策は少しやっただけでも効果が大きい</u>ため、<u>区の特徴に対して集中的にできると大変素晴らしい。</u></p>	フロン類のガス種別発生別排出量の詳細は不明なため、今後それら状況の把握が必要である旨の追記をする。	資料3 p. 48
10	<p>【災害時における水素自動車等の活用】</p> <p>「災害時における水素自動車の活用」の事業があるが、<u>災害時には水素自動車よりも電気自動車の方が活用しやすく、広がりも考えやすい。</u></p>	水素自動車については、現行計画の引継ぎで掲載している。今後自動車分野での脱炭素化が進行するにつれ、電気自動車の災害時の活用についても重要になってくると考えられる。また、水素自動車と併せて電気自動車やプラグインハイブリッド車も併せて活用していく方針であり、それをふまえた表現に訂正する。	資料3 p. 46

No.	質疑内容	対応	資料
11	<p>【災害時における分散型電源バッテリーの利用】 家庭の太陽光電池や太陽光発電などが災害時にうまく使えなかった事例も出てきている。<u>電気自動車や家庭用の発電装置など、分散型の電源バッテリーをどう利用していくかは水素自動車の活用よりも先ではないか</u>と感じた。</p>	<p>家庭や事業者に対して国や東京都の補助に上乗せする形で補助ができないか検討している。電気自動車等の導入による省エネ化や脱炭素化を進めながら、災害対策にも寄与する方法で進めていきたいと考えている。</p>	-
12	<p>【集合住宅における電気自動車の充電】 <u>電気自動車の充電について、千代田区はマンションが多いが、既存の集合住宅に設備を付けることは非常に難しい。その辺りを促進していくための活動も必要ではないか。</u></p>	<p>今後の検討事項に対する意見として承る。</p>	-